

地域ネットワークニュース

～平成31年2月の勉強会のお知らせ & 1月の勉強会報告～

第253回 地域ネットワーク勉強会

知って安心、精神科病院の医療相談室の役割



講師：門前 明久氏（精神保健福祉士）
みやざきホスピタル 医療相談室（稲敷市）

医療機関での受診には、外来・入院を問わず、医療費等の支払いなどの経済的な問題やその後の地域での生活など、様々な不安が伴います。

精神科病院の医療相談室は、こういった生活課題を精神疾患を抱えるご本人やご家族と共に考え、地域の相談支援事業所や就労支援施設等の関係機関と連携しながら、福祉の制度やサービスを活用して受診の不安を和らげ、本人が望む暮らしを送れるよう支援します。

また漠然とした不安や心配ごとを自分だけでは解消できない状態で、精神科や心療内科の受診が必要なのか迷っているときの相談の入口にもなります。

勉強会では、医療相談室が持つ役割を中心に、地域の関係機関と連携しての対応事例や初診前の不安を和らげるための相談対応など、安心して治療を受け、自立した地域生活を送るための取り組みについてお話しいたします。また、みやざきホスピタルでの臨床心理士による心理カウンセリングについて、具体的な内容や利用方法についても話していただきます。

精神疾患を抱える当事者の方やそのご家族はもちろん、地域で精神障害者を支える医療・保健・福祉の各分野のみなさんのご参加をお待ちしています。

会場内には情報提供・紹介コーナーを設けています。福祉や医療に関する事業所等のパンフレットやチラシ、研修会のご案内など、配布、展示いたします。当日のご持参でもかまいません。みなさまからの情報をお待ちしています。申込・問合せ先 神栖市社協 地域福祉推進センター 担当 名雪・高岡 電話 0299-93-0294

第252回 地域ネットワーク勉強会報告

1月28日開催
参加者94名

『発達障害のある子へのサポート方法』

講師：海老原朱美 氏（臨床発達心理士）茨城県発達障害者支援センターあい

発達障害のある子、もしくはその疑いのある子は、急な予定変更や、とっさの行動が苦手や、初対面の人や慣れない場所では過度に不安を感じたり、緊張してしまったりすることがあります。

幼児期の子どもは言葉でうまく自分の状態や気持ちを伝えることができないため、さらに不安が強まります。発達障害の特性である見え方・感じ方を知ること、その子の得手、不得手を見つけ、その子とその属する集団にあった配慮や工夫をしながら、安心できるようサポートすること、そして本人の特性や発達を尊重し、そのサポートが適切であったか検討して、より良いものに更新していくことが大切になるということが話されました。

また支援者であっても、心配や不安から生まれる「イライラ」や「怒り」等の感情は自分の中に当然にあるもので、自分を守るために必要な感情ですが、怒りとして表出される感情と上手に付き合うスキル（アンガーマネジメント）を身につけることも、発達障害を抱える人たちへの支援には必要になるということをお話いただきました。

